



訪問看護サミットで6政党の代表が出席し、訪問看護に関してコメント。自民党代表として発言しました。



衆議院補欠選挙、町村信孝候補の応援で、札幌で街頭演説



自民党女性局の企画による、自民党女性地方議員の街頭演説会。有楽町の駅前の演説会で、司会を務めました。



「南野知恵子先生 感謝の集い」で、南野先生からしっかりバトンを受け継いだことを、参加者の皆様に表明。

私は野党の議員として当選したことで、むしろ自分に自らの特性や専門性を発揮していけるという手ごたえを感じています。間違いなく、まもなく政権が大きく揺らぎます。その時にしっかりと機能できるように備えておくことができる立場にいるからです。このポジションを看護職が勝ち取った意義はとて大きいです。現場で働く一人ひとりの悩み、苦しみ、課題を話し合い、行動をとる仲間づくりを着々と進めましょう。「私ごときが発言しても何も変わらない」とあきらめないで、ともに行動しましょう。一人ひとりの行動が結びつき、力は無限大に広がります。

り様に疑問を感じ、何か変えなければならぬのではないかと焦りを募らせ閉塞感を膨らませていった社会が、変化を求めました。ほんの数年前のことです。変化へと動き出したパワーは止まることを知らず、ついに政権交代まで至りました。しかし、そのわずか8か月後、これらの変化は形のないうものを追いついた結果でしかなく、選択は間違っていたということが明らかとなりました。それでもまだ社会は、もしかしたらと猶予の期間を与え、迷いながらも何となく期待を持ち続けてきたのではなかったかと思えます。そうして、いま政権交代から16か月が経ちました。私は新人議員ですが、地域の中には政権への失望と憤り、期待を裏切られたという屈辱感がみなぎっていることを感じます。こうした時

だからこそ、次への道を切り拓く、確固たる意思やリーダーシップが芽吹いてくるに違いないと、そう思います。予期せぬ混乱を経験したからこそ、国民の政治への関心が強くなっています。その結果、間違いなく国民の政治観が成熟し、この国の政治的な土台が醸成され、次の時代へと一歩抜け出す力が蓄えられている。そんな気持ちを強く持っています。話題になった事業仕分けは、場当たり的で根拠のないものが少なくありませんでした。例えば、社会保障サービスに関する事業は、現場を知らず専門的な知識や見識もない方々が、数分議論するだけで善し悪しを決められるものではありません。法的な根拠もなく、十分な議論も尽くされないままに切り捨てられたことにより、実際にそれま

でサービスを受けていた人が不利益を被った例もありました。わかりやすく鮮やかな物言いをすることが政治だという誤解を、それこそ最もわかりやすく露呈したのが、いわゆる仕分けの功罪だったのではないのでしょうか。新型インフルエンザの予防接種についても同様です。社会人は夜間や休日しか時間がとれないことも多いですから、医療機関では時間外勤務のスタッフの確保、その人件費の支出も考えなければなりません。ところが、公的資金はワクチン代しか予算計上されていません。これは、現場感に欠ける事業企画の欠陥を露呈した代表的な例です。



7月30日、初登院

日本の社会はいま、成熟した政治を求めています。

高階 恵美子 参議院議員



平成22年7月26日から始まった参議院議員の活動は、すべてが楽しく刺激的です。

国会での役割はもちろんのこと、自民党内でも女性局長代理、ネットメディア局長、厚生労働部会副部長と、新人ながら思わぬ重責を拝命いたしました。社会保障を実現する最大規模のプロジェクト、看護職の一人として、いよいよこれから活躍の場を拡げる時機なのだという気持ちを、日々強くしております。

今回は、この半年の間に国会議員たかか恵美子が携わらせていただいた事柄や国会の動きについて、ご紹介いたします。

参議院の委員会には、国会法で規定された17の常任委員会と、必要に応じ



て設けることが可能な特別委員会の2種類があります。現在、私はこの中で厚生労働委員会と行政監視委員会に所属しております。どちらもテレビ中継のない委員会ですから、身近にご覧いただく機会はなかったかもしれませんが、10月1日に開会された臨時国会では、厚生労働委員会が4回、行政監視委員会が3回開催されました。焦点となる予算委員会が機能停止のような状態に陥ってしまし、閣僚の資質を疑うような不適切な発言も相次ぎました。また、国内外で発生する様々な危機事例への誤った対応も目に見え、余る有様でした。こういう事態な

ものですから、各々の法案を審議する各種の委員会がなかなか開かれず、極めて未熟な国会運営だったという印象を持っています。



参議院厚生労働委員会での質問

私は比例区選出なので、議員活動の場も全国に広がっています。自ずと党の要請で各地に遊説する機会も多いのですが、何処へ行っても必ず「何より国会中継がおもしろいね」という声をお聞きます。委員会の花形とも呼ばれる予算委員会の審議の様子は、お茶の間で最もホットな話題で、ドラマよりも高い関心を集めているようです。国政に携わる一員としては、極めて情けない現状を指摘されているようで辛い気持ちになりますが、その一方で、この一言に触れるたびに、多くの国民がいま国政に注目しているという、熱気を肌で感じます。

予想を超えて変化し続ける社会に対し、かつてこの国の政治は、長く安定の時代を続けてきました。こうした在